



【プレスリリース】

報道関係各位

2020年11月17日

当院医師が実行委員として参画

『ワクチンパレード 2020』にて田村厚生労働大臣に要望書を提出

～ワクチンで防げる病気から健康を守るため、必要なワクチンを無料接種できる環境を～

拝啓 ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部神奈川県済生会横浜市東部病院(神奈川県横浜市鶴見区、以下、当院)は、当院小児肝臓消化器科 乾あやのが実行委員として参画している、ワクチンパレード実行委員会(子ども支援ネットワーク)において、『ワクチンパレード 2020～希望するすべての人たちにワクチンを！～』と題し、ワクチンで防げる病気(VPD)から私たちの健康を守るため、必要なワクチンを無料接種できる環境を訴えるための要望書を10月8日(木)に田村憲久厚生労働大臣に提出、その後、加盟団体の代表からリレーメッセージをオンラインで配信いたしましたので、その概要をお知らせいたします。

ワクチンで防ぐことができる病気「VPD(Vaccine Preventable Diseases)」をワクチンで防ぐ。これは感染症から国民の健康を守る非常に重要な政策であり、世界各国で取り組まれてきました。しかし新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の感染拡大で世界中が混乱するなか、これまでになく感染症対策に世間的な注目が集まってきています。

また当初 2020 年に開催が予定されていた国際的なスポーツの祭典では、海外から持ち込まれる感染症から引き起こされるパンデミックから大会関係者やボランティアを守る対策も重要な位置づけとなります。

ワクチンパレード実行委員会はこれまで一貫して国内の感染症対策の強化や、国外から感染症を持ち込み、拡大させないためにワクチンによる集団免疫を獲得することを目指し、日本で受けられるワクチンについて多くの人が知ることができ、経済的な負担なく接種できる環境整備を訴えかけてまいりました。

報道関係の皆様におかれましても、COVID-19 の拡大防止に加え、国民のワクチン接種による感染症予防意識の啓発に、取材活動を通じてお力添えを賜れますと幸いです。

なお、当日の様子は次項ほか、下記 URL からご覧いただけます。

『オンラインワクチンパレード 2020_希望するすべての人たちにワクチンを！』

(https://youtu.be/jN5sNI_b_wQ)

敬具

<本件についてのお問い合わせ先>

済生会横浜市東部病院 広報推進室 担当:今野・荒木

電話:045-576-3000 Email:koho@tobu.saiseikai.or.jp

■ 田村憲久厚生労働大臣への要望書提出の様子



田村憲久厚生労働大臣の言葉

「ワクチンの有用性が証明されてきているが、国民の前向きな理解とそうではない部分があるので、この問題を解決していく必要がある。加えて HPV ワクチンについては積極的勧奨とまではいかないが、対象者に事実を知ってもらう個別通知を行いたい。また、おたふくの問題も古谷範子議員から助言があり、前向きに取り組む姿勢を示した」

■ 加盟団体からのメッセージ

<NPO 法人日本小児肝臓研究所>



小児肝臓消化器科 乾あやの
 済生会横浜市東部病院 小児肝臓消化器科 部長
 NPO 法人日本小児肝臓研究所 副理事長
 東邦大学大学院医学研究科 成育肝臓消化器学 教授(連携)



「VPD ということで B 型肝炎ワクチンが 2016 年に定期接種となったが、今回の新型コロナウイルス感染症の流行で感染症には国境がないことが明らかとなった。B 型肝炎も海外型が入ってくる場合もあり、全国民が一生に一度は HB ワクチンを受けるように施策を拡充してほしい。肝炎対策に尽力した田村大臣であるので進めたい」

専門領域、社会的活動(資格)、業績

専門領域: 肝臓学、感染症、代謝

社会的活動: 日本小児科学会専門医、日本肝臓学会専門医・指導医・評議員

日本小児栄養消化器肝臓学会認定医、インфекションコントロールドクター

業績: 第 39 回多ヶ谷勇記念ワクチン研究イスクラ奨励賞

「B 型肝炎ワクチンの universal 化に向けた研究」受賞

2016 年～「The Best Doctors in Japan」に選定

<風しんをなくそうの会「hand in hand」>



可児佳代(同会代表)、大畑茂子(同会役員)

「第5期接種がコロナ禍で進んでいないことを心配しています。風しん排除にむけて真剣に取り組み、クーポンを活用を提言したほか、時限的措置ではなく、抗体価保有率 90%になるまでの継続を要請いたしました」

<細菌性髄膜炎から子どもたちを守る会>



田中美紀(同会代表)

「来年に延期になった世界的なスポーツ大会を前に、髄膜炎菌ワクチンを大会関係者やボランティアへ無料で接種し、あわせて疾患の認知度を上げるよう啓発を進めていただきたい」

■ ウイルス学者 加藤茂孝先生のコメント

「先天性風しんで子どもたちに障害が現れることは分かっている。そのため、障害が現れる数よりも、それを恐れて人工中絶する人数の方がはるかに多い。1 人の先天性風しんの子どもの背景には 60 人の子どもたちがいる。表の数字ではなく、陰になった人たちがいることを知っていただきたい。

検査体制の問題点も今回の新型コロナウイルス感染症の状況と同じであったが、希望する検査が可能となる体制を整備すれば人工中絶を避けることができると指摘させていただいた。加えて 2014 年の西アフリカのエボラ出血熱大流行を事例にあげ、エボラも 1 万人以上が亡くなったが、エボラ感染で医療が崩壊し、ワクチンを受けなかったり、衛生状況が更に悪くなりパンデミックの疾患以外の病気でなくなったりした方が多くみられた。

ぜひ、新型コロナウイルス感染症対策だけでなく、ワクチンがある疾患を積極的に防いでほしい」

■ 【一般社団法人 Plus Action for Children 理事/細部小児科クリニック院長】細部千晴先生のコメント

「11 年の間に水痘や HB 等、任意接種だったものが定期接種となったが、おたふくかぜが唯一残っている。

また定期接種であるが国民に周知されていない HPV ワクチンがある。

情報、地域、経済、施設の 4 つの格差をなくすための啓発を行う必要性に加え、日本版 ACIP を創設し政治の影響を排除した予防接種施策を強く求めたい」

<実施概要>

- 主催： ワクチンパレード実行委員会(子ども支援ネットワーク)
- 協賛団体： 公益社団法人日本医師会、公益社団法人東京都医師会、一般社団法人中野区医師会、全国保険医団体連合会、千葉県保険医協会
- 実行委員会加盟団体： 細菌性髄膜炎から子どもたちを守る会、風しんをなくそうの会「hand in hand」、NPO 法人 日本小児肝臓研究所、SSPE 青空の会(亜急性硬化性全脳炎・家族の会)、ポリオの会、くまがやピンクリボンの会、NPO 法人 VPD を知って、子どもを守ろうの会、NPO 法人 人工聴覚情報学会、子ども支援ネットワーク

<本件についてのお問い合わせ先>

済生会横浜市東部病院 広報推進室 担当:今野・荒木
電話:045-576-3000 Email:koho@tobu.saiseikai.or.jp